

INFORMATION プロジェクトの今後の展開に向けて

平成27年度から3年間の計画で始まった「日本における次世代対応型教育モデルの研究開発」は、本年3月に無事終了し、同年4月より、新プロジェクト「次世代型コンピテンシー育成のための教育方法開発とその国内外への発信」（文部科学省機能強化経費事業）が始まりました。

本プロジェクトでは、コンピテンシー育成を目指す授業を実際に行うための情報（手立てや評価等）を明らかにし、同時に外部に発信しようとするもので、組織もこれまでの3部門制から、必要な情報を集める「育成部門」とその情

報の効果的な発信と効果検証を目的とした「発信部門」の2部門制に改めました。また、これに伴い、鎌田正裕教授がプロジェクトリーダーを務め、前プロジェクトリーダーの岸学特命教授がプロジェクトマネージャーを担当します。

今回はプロジェクトの更なる発展を目指し、小学校・中学校の英語を研究対象教科に加えることを検討するとともに、東大のISN (Innovative Schools Network) と連携を深めて研究を進めていく予定です。本プロジェクトへのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

NEWS 第2回NGEシンポジウムを開催しました

2018.3.10

2018年3月10日（土）、東京・一橋講堂において第2回東京学芸大学次世代教育研究推進機構(NGE)シンポジウム「21世紀のコンピテンシーを育成するための指導・学習・評価のあり方とは？－OECDとの協働による指導・学習モデルと新しい評価方法の実際－」が開かれました。出口利定学長の開会挨拶の後、NGE各部門の研究結果が報告されました。

そして、西岡加名恵氏（京都大学大学院教授：教育評価）による講演「これからの評価のあり方を提案する」では、多様な評価方法やパフォーマンス評価の意義、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、「本質的な問い」と「永続的な理解」の問題、カリキュラムの「逆向き設計」論など、これから鍵となる視点を示していただきました。続いて、Andreas



開会の挨拶をする出口学長

SCHLEICHER（アンドレアス・シュライヒャー）氏（経済協力開発機構（OECD）教育・スキル局長）による特別講演「Preparing Students for Their Future, Not Our Past」では、世界の教育改革の動向やOECDのEDU2030事業の現況、PISA調査の国際比較を通して最新の知見と示唆を得ることができ、日本の子ども

の資質・能力の育成について広い視野から考えるよい機会となりました。

会の後半では、鎌田正裕教授司会による「21世紀のコンピテンシーを育成するための指導・学習・評価のあり方とは？」をテーマにした全体討論（登壇者：田熊美保氏（OECDシニアアナリスト）、奈須正裕氏（上智大学教授）、平本正則氏（横浜市立仲尾台中学校長）及び、先述の西岡加名恵氏）を行いました。討論者より、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ学習論が移行・拡張する中での課題や、授業実践例とパフォーマンス課題との関連性、現職教員の大量退職・採用後の教育課題、OECDのEDU2030事業との共同研究の意義などの視点から有意義なコメントをいただきました。シンポジウムの参加者からは、新学習指導要領の実施を想定した励ましや要望、新たな展開への期待等のご意見・ご感想をいただきました。お礼申し上げます。（文中の所属・職名は当時のもの）



講演をする西岡教授



記念講演をするシュライヒャー局長



ディスカッションの様子

NEWS 国際会議にて成果が発表されました

2018.5.14-16

2018年5月14日から16日まで、フランス（パリ）のOECD本部にて、第7回Informal Working Group会議（以下IWG会議）が開催されました。IWG会議は、OECDの「The future of education and skills Education 2030事業」の進捗と成果を集約、共有し、各国代表者による議論を行う場として2015年から開催されています。機構は毎回、傍聴もしくは現地にて直接参加し、第4回以降は成果が継続して発表されています。



第7回IWG会議（パリ）の会議場の様子

第7回では、機構から柄本健太郎講師が出席し、初日のワークショップにて発表を行いました。発表内容は、東京学芸大学附属大泉小学校の松井直樹教諭による体育の授業実践映像（解説字幕、分析担当：鈴木聡准教授）について、教育の具体例の発信方法に関して参加者の間で活発な議論が行われました。今後も資質・能力の全体像の国際的議論に積極的に参加していく見込みです。

NEWS 短期交換留学プログラムにて講義を行いました

2018.5.21

2018年5月21日、東京学芸大学（20周年記念飯島同窓会館）にて、Bridgewater State Universityと学芸大学との短期交換留学プログラムの一環として柄本健太郎講師が講義を行いました。

講義は「Lecture4 “Future Education in Japan”」と題し、機構のこれまでの研究結果・OECD・次期学習指導要領の枠組み・小学校体育の事例映像等が40分ほど紹介され、質疑応答では引率のDr.Karen Richardson先生、Dr.Deborah Sheehy先生を含め、BSU学、学大生の間でやりとりがなされました。



講義を行う柄本講師

NEWS

2018.3.9 & 4.5 & 5.1

2018年度以降の次期Projectの体制や取組についてOECD・文部科学省・ISN (Innovative Schools Network) との間で会合を重ねました

(1) 2018年3月9日 15:00より、KKRホテル東京会議室にて、OECDシニアアナリスト田熊美保氏とNGEスタッフ8名との間で、東京学芸大学・ISNの間の協働研究の進め方、OECDとの契約のあり方などについて意見交換を行いました。特に、学芸大学が実施してきたこれまでの授業映像分析や映像配信システム21CoDOMoSについて、ISNと協働してどのように展開するのが論点となりました。

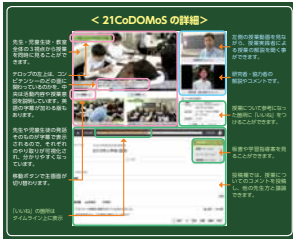
(2) 2018年4月5日 16:00より文部科学省にて次世代Projectの今後の進め方に関する話し合いを行いました。文部科学省出席者は、白井俊初中等教育局教育課程企画室長、堀尾多香大臣官房国際課課長補佐、鶴岡泰二郎国際課国際機関係長、学芸大出席者は鎌田正裕Project Leader、岸学Project Manager、柄本健太郎講師、鈴木悦夫教育インキュベーション推進担当課長でした。内容は、OECDとの間で取り交わすProposalと

Offer Letterの内容や作成作業の進め方が中心論題でした。また、ISNとの協働研究体制についても意見交換を行いました。

(3) 2018年5月1日 10:00より東京大学にて第11回ISNボード会議が開催されました。これはISN運営を検討する代表会議で、出席者は鈴木寛文部科学大臣補佐官、三浦浩喜福島大学理事、秋田喜代美東京大学教授、山中伸一広島県特別参与、ISN事務局の小村俊平事務局長、太田環事務局次長ほかでした。この会議に学芸大より鎌田正裕Project Leader、岸学Project Managerが出席し、ボードメンバーに学芸大より1名が加わることが正式に承認されました。そして、学芸大Projectの今後の活動内容についてPresentationを行いました。これにより、学芸大とISNとの協力体制が正式にスタートしたことになります。

REPORT

動画配信システム：21CoDOMoSを公開中



21CoDOMoSの画面



<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/21CoDOMoS/index.html>

次世代教育研究推進機構では、動画配信システム：21CoDOMoS (21st century Competency Development Online Moving-image Service) を公開中です。21CoDOMoSでは、子ども達に知識や技能と共に未知の状況にも対応できる汎用的スキル(思考力・判断力・表現力等)と、よりよく社会・世界と関わり、よりよい人生を送るための態度・価値(学びに向かう力・人間性等)の育成を意図して行われた「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の各教科等の授業動画を配信し、小学校や中学校の学校教員を初めとした教育関係者に、子ども達のコンピテンシーを高める授業について「学び」、「考え」、「議論する」場を提供しています。21CoDOMoSは、2018年3月10日に公開され、現在、20(教科数：12、日本語字幕：14、英語字幕：6)のコンテンツが配信されており、引き続き配信のコンテンツを増やしていきます。利用者数は既に300人を超えており、今後、教育委員会等を通して広く多くの人に周知する予定です。

REPORT

東京学芸大学附属大泉小学校の探究科の取り組み

次世代教育研究推進機構では、平成27年度より、東京学芸大学附属大泉小学校と共同研究に取り組んでいます。これまでのところ、「探究科」で育む資質・能力について、教師および児童を対象にした一連の調査を実施し、各学年ブロックで育成すべき資質・能力の構造を提案するとともに、これらの資質・能力の構造を踏まえた学習評価実践とその効果検証を行いました。なお、学習評価実践は、児童の形成的評価自己評価を促す学習評価法として、学習過程に即したルーブリックを使用した評価法を提案し、さらに、ICT機器を用いたルーブリックの実践に取り組んでいます。今年度は、ICT機器を用いたルーブリックの実践において、自己評価の証拠として写真や動画を児童に蓄積させ、操作ログや操作時の語り等の学習記録データを分析し、ICT機器を用いた新しい学習評価法の提案やその効果検証を行う予定です。



附属大泉小学校実践

REPORT

「東京学芸大学特別活動評価スタンダード」作成と検証

第2回次世代教育研究推進機構シンポジウムで、部門3の取り組みとして「特別活動」と「特別の教科道徳」の評価の発表を行いました。そこで、「東京学芸大学特別活動評価スタンダード」「東京学芸大学特別活動評価シート」、並びに評価シート簡易版を公表しました。「東京学芸大学特別活動評価スタンダード」は、文部科学省の提示した資質・能力である、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等と、特別活動において育成を目指す視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を組み合わせて全18項目に区分したチェックリスト形式のもので、これにもとづき、「東京学芸大学特別活動評価シート」を開発し、東京都八王子市

立式分方小学校の先生方のご協力により検証作業をさせていただきました。学級活動は5事例、児童会活動は4事例、クラブ活動は4事例、学校行事は3事例の分析が完成しています。この分析によって、同じスタンダードを用いて各活動・学校行事を包括的に評価できることが現在到達している成果です。

東京学芸大学特別活動評価シート

INFORMATION

NGEシンポジウムがCREDUONで紹介されました

NPO法人東京学芸大学子ども未来研究所の教育クリエイターに向けたWEBマガジンCREDUON (<http://creduon.jp>)にて、NGEシンポジウ

ムに関する山田一美教授(NGE統括教員)の記事が紹介されました。



NGE通信 vol.06

2018年6月18日発行
編集／発行元：東京学芸大学 次世代教育研究推進機構
東京都小金井市貫井北町 4-1-1 芸術・スポーツ4号館2階

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/>

・記事については、右のリンクまたは下記の連絡先へお問い合わせ下さい。
Mail:jisedai@u-gakugei.ac.jp Tel:042-329-7924

